



平成30年10月30日

各位

会社名 株式会社 リボミック  
代表者名 代表取締役社長 中村 義一  
(コード番号: 4591 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役執行役員経営企画部長 中村 恵美子  
TEL. 03-3440-3745

## RBM-007 の米国治験における第一例目患者投与のお知らせ

当社が開発した RBM-007 (抗 FGF2 アプタマー) について、滲出型加齢黄斑変性症治療薬としての治験 (PI/IIa 試験、呼称 SUSHI Study) の第一例目の被験者への投与が、米国スタンフォード大学において完了しましたので、お知らせいたします。

本 PI/IIa 試験は、オープンラベル (非盲検)、非無作為化 (ランダム化しない)、無対照 (対照薬を置かない) の試験で、9 人の患者 (予定) に対して、RBM-007 を単回投与 (硝子体内注射) します。3 用量を設定し、もっとも少ない用量から 1 人ずつ投与し、主に安全性及び忍容性を確認いたします。

本治験の概要は、ClinicalTrials.gov (臨床試験に関する情報を提供する米国の公式サイト) をご参照ください。

<https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT03633084>

※本ウェブサイトの情報更新にはタイムラグがございます。

加齢黄斑変性症は、加齢に伴い網膜の黄斑部に障害がおこる疾患で、欧米では失明原因の第一位となっています。加齢黄斑変性には萎縮型と滲出型の 2 つの種類があり、失明する患者の大半が後者で、RBM-007 もこちらを対象疾患としています。

RBM-007 は、当社独自のアプタマー創薬技術により創製された医薬候補品で、滲出型加齢黄斑変性症の誘因あるいは増悪因子と考えられる FGF2 の機能を、特異的かつ強力に阻害します。RBM-007 は血管新生および瘢痕形成を抑制する作用を併せ持ちます。こうした異なる機序の二重作用は既存の医薬品にはない新規なメカニズムで、既存薬では奏功しない患者に対して新規な治療法を提供できる可能性があります。現在、臨床ステージにある FGF2 阻害剤の報告はなく、今回の投与は、FGF2 を標的とする薬剤についての、世界で初めてのヒトへの投与となりました。

なお RBM-007 については、既に当社の物質特許が米国において成立しております。

なお、本件による当事業年度の業績に対する影響はありません。

以上